

■ 地域防災 ■

串間市福島地区の防災研修会は、同市の道の駅「くしま」であった。地区内外から市民ら約120人が参加。専門家の講演を通して地震災害への備えについて意識を高めた。

研修会は同地区自治会と地域連携組織「Fukushima支え隊」が17日に開催。宮崎公立大の山下裕亮准教授（観測地震学）が「近づく日向灘・南海トラフ巨大地震!!その時に備えて」のテーマで講演した。

山下准教授は「震度は揺れによる被害、地震の規模を示すマグニチュードは津波に関係する」と説明し、「強く揺れなくても、マグニチュードが大きければ津波は来る。大津波警報や津波警報が出たら必ず避難してほしい」と訴えた。

同市でも甚大な被害が想定されている南海トラフ地震は100～150年周期で繰り返し発生しており、「巨大地震の揺れは分単位で続く。弱くても1分以上続けば巨大地震のサイン」と警鐘を鳴らした。

備えについて「一つの完璧な『答え』を求めるのではなく、さまざまなケースを想定して複数の対応策を事前に考えてほしい」と強調。

「地震発生は止められないが、事前の準備と行動力で未来の命を守ることができる」と呼びかけた。

（橋本恭輔）

